

京都で
日本文化を
学ぶ4年間。



2025年4月開設予定
設置認可申請中

日本文化学部 日本文化学科 (仮称)

Department of Japanese Studies

日本文化の中心地である京都に蓄積された豊富な文化財・文化資源を
実際にみて、触れて、感じる学びをとおして、
伝統文化の継承と新しい文化の創造の調和を大切に人づくりをめざして。

※設置構想は予定であり、内容が変更する場合があります

将来の進路イメージ

公務員、出版・マスコミ、旅行社、ソフトウェア関連の情報産業、民間企業の事務職をはじめ、食品関連企業、伝統産業に携わる企業(文化関連企業、伝統産業)、寺院関連業といった文化の多様性に対応できる様々な業界・職種をめざすことが期待できるとともに、取得資格を活かして中学校・高等学校の国語教員、図書館司書、博物館や美術館などの学芸員として活躍することも期待できます。

養成する人材像

日本文化学部では、多様な日本文化を創造、発展、継承させてきた国際都市・京都において蓄積された文化資源を活用して、日本文化を構成する歴史文化、表現文化、京都文化、地域・和食文化などの専門的な知識と日本文化を深く探求する力や新しい文化創造に寄与する能力を修得し、グローバル化、情報化、少子高齢化の進展にともない、人々の価値観や生活様式が多様化している現代社会において共有される考え方や価値基準の体系である文化に触れ、多文化・多様性を理解し価値観を尊重する豊かな人間性と、提案力・実行力などのソフトスキルを備えた職業人として、社会に貢献できる資質・能力を備えた人材を養成します。

学びの内容と特色

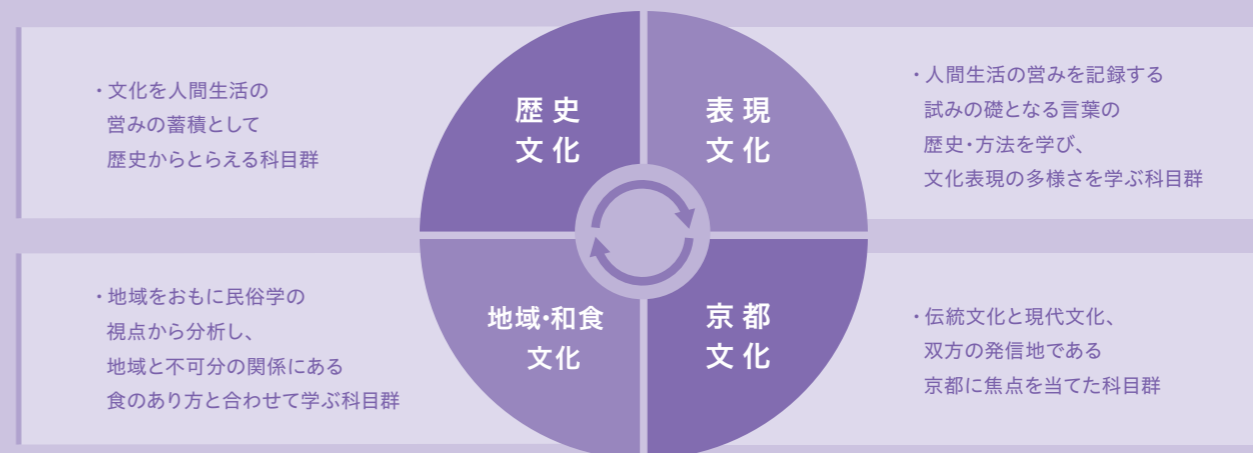
本学は、有名な寺社仏閣が多く、室町時代には東山文化が開いた地、浄土宗総本山である知恩院に隣接しており、日本文化を学ぶ最適な場所にあります。京都は、世界の人気観光地でも常に上位にあげられますが、その歴史は、東洋・西洋の多種多様な文化を取り入れ、共存しながら発展してきたものと言えます。

この立地を活かした多くの体験型授業を通じて、日本文化に触れ、興味関心の幅を広げ、自分の好きな分野を思う存分学ぶことができるのが、日本文化学部(仮称)です。京都を舞台に京都文化、地域文化、生活文化、和食文化、歴史文化、表現文化などからなる学生参加型のカリキュラムによって、「文化」に深く触れていきます。

日本の文化を学び、発信する力を身につけ、卒業後は一般企業、公務員をはじめとする進路が予想されますが、
①中学・高等学校教諭一種免許状(国語)、②学芸員、③図書館司書の
3つの資格養成を予定しており、それぞれの分野で活躍することができます。



日本文化を学ぶ4つの科目群 (予定)



日本文化学部では、歴史、思想、文学、芸術、日本語など日本文化に関する教育研究を通して、多様性を尊重し、新たな文化的価値を創造する態度と能力を育成することを教育研究上の目的としたカリキュラム構成を計画しています。

※ 設置計画は予定であり、内容を変更する場合があります

カリキュラム・マップ(予定)

卒業認定・学位授与の方針との関連	1回生	2回生	3回生	4回生
語学や社会学、健康科学などの幅広い教養を身につけ、多様な価値観を尊重する豊かな人間性により対話を通じた相互理解ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 英語 I 日本語表現法 	<ul style="list-style-type: none"> 英語 II こころの科学 	<ul style="list-style-type: none"> 英語コミュニケーション I 自然科学 I (生物) 	<ul style="list-style-type: none"> 英語コミュニケーション II 中国語 I
日本の宗教や芸能に関する歴史学及び古典と現代的表現に関する文化・文学の専門的知識を有し、思想と言語の成り立ちが理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> 総合科目 総合基礎演習 I 総合基礎演習 II 	<ul style="list-style-type: none"> 学部必修科目 キャリア教育 	<ul style="list-style-type: none"> 基本科目 健康スポーツ科学 I 健康スポーツ科学 II 社会学概論 中国語 II 	<ul style="list-style-type: none"> 健康スポーツ科学 II ジェンダー論 国際理解 人権と社会 情報処理 くらしと法律 (日本国憲法) 消費者教育
伝統文化の教養としての京都文化や民俗と和食に関する地域文化の専門的知識を有し、京都の魅力を発見・発信することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 表現文化科目群 日本語史 日本文学概論 I 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史文化科目群 芸能文化史 服飾文化史 京都の歴史学 佛教文化史 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史文化科目群 アジアの歴史と文化 日本文化特講 I 寺社の歴史 	<ul style="list-style-type: none"> 表現文化科目群 書道 I 書道 II 日本文化と英語 日本文化特講 II
講義による先行研究の理解や、演習、フィールドワークによる実体験など複数の研究方法を身につけ、課題解決の方法を提案・実行できる。	<ul style="list-style-type: none"> 京都文化科目群 京都と文学 (古典) 京都と文学 (近現代) 	<ul style="list-style-type: none"> 京都文化科目群 京都の美術史 京都の祭礼・年中行事 	<ul style="list-style-type: none"> 京都文化科目群 京都観光論 茶道・華道・香道 日本文化学特講 III 京都の文化財 京都の伝統工芸 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史文化科目群 地域・和食文化科目群 和食の科学 和食と環境 民俗文化 日本文化学特講 IV
少人数ゼミによる他者の意見を受容する力を有し、文献資料の分析を通じて問題意識を醸成し、卒業論文の執筆を通じて、自らの将来を構想することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 学部必修科目 日本文化総論 I 地域文化論 	<ul style="list-style-type: none"> 学部必修科目 日本文化演習 I 京都文化論 	<ul style="list-style-type: none"> 学部必修科目 文献講読 	<ul style="list-style-type: none"> 学部必修科目 卒業演習 (論文を含む。)

1年から4年次に、日本文化を形成する「歴史」「表現」に加えて、有形・無形に関わらず歴史的価値のある文化が蓄積した地域にある特性を活かした「京都文化」と、その影響を受けながら地域ごとに形成されていった民俗を学ぶ「地域・和食文化」の各科目群を学びます。

講義、演習、フィールドワークなどの授業形式を通じて、文献研究、アクティブラーニングや体験型学習による総合的な思考・判断力を培う選択科目を学びます。

日本文化とは何かを理解するために、1・2年次に、日本文化の概説的科目並びに文学と歴史を中心とした学部基幹科目を学びます。

コミュニケーションなどの汎用的技能の習得や自立性を獲得するために、個人が現実の課題への関心を深めるゼミや文献研究、卒業論文演習などの学部必修科目を学びます。

※ 教育職員免許状、司書資格、学芸員資格及びその他の資格を取得する場合、上記卒業に必要な科目の単位を修得するほか、各資格の取得に必要な科目の単位を併せて修得する

取得可能な免許・資格
予定

| 高等学校教諭一種免許状(国語)
| 中学校教諭一種免許状(国語)
 中学校・高等学校教諭一種の免許状を取得できる教職課程を履修し、必要な科目の単位を修得するとともに教育実習、中学校一種はさらに特別支援学校・社会福祉施設などで介護等体験実習を行うことが必要です。教員として就職するには教員採用試験に合格することが条件となります。

| 図書館司書資格
 図書館で専門的職務に従事する職員に求められる資格です。司書課程を履修し、必要な科目の単位を修得することで資格が取得できます。また、課程科目を履修する中で、大学での学修や仕事上必要となる、情報・資料・文献の探索方法や組織化などに関する知識や技術を身につけることができます。

| 博物館学芸員資格
 博物館で資料の収集・保管・展示・調査研究のほか、これらの関連事業について専門的事項に携わる職員となるための資格です。美術館、資料館、水族館、動物園、植物園などでも専門職として活躍が可能。学芸員養成課程を履修し、必要な科目の単位を修得するとともに博物館実習を行うことで資格が取得できます。